「市民の活力が充つる」まちなか再生をめざして　～庁舎再編を契機としたエリアリノベーションと「まち育て」を市民とともに

黒石市のまちなかは、多くの歴史的資源が市民や来訪者に親しまれている反面、人口減少やライフスタイルの変化などを背景に、商業・業務の魅力低下が顕在化し、市民のまちなかへの親しみや誇りが失われつつあります。
私たちは、庁舎再編を契機としたエリアリノベーションの機会を黒石100年の計と捉え、これまでの公民協働による「まち育て」の広がりと結び付け、次の実施方針に基づき黒石市・市民の意向に真摯に向きあい、業務に取り組みます。

主な特徴
- 陣屋形成以降 300 年余りの歴史的資源が豊富なまちなかエリア
- 「こみせ」「かぐじ」など、私的空間を公的空間として提供する文化
- 市民力が強く、各団体による様々な「まち育て」が定着、発展

主な課題
- まちなかは人口が減少し、訪問する市民の過半が滞在１時間以内
- 働く場が少なく就業者が流出　・公共交通が利用しにくい
- 遊休地が増えこみせが連続せず、かぐじが有効に使われていない

図1：黒石市の特徴と課題

【課題解決に向けた取組方針】

方針① 開かれた庁舎整備を起点とした 賑わい創出

- **まちに開かれた庁舎**：機能を分散する3つの庁舎のそれぞれの特徴を活かしながら、市民が親しみ利用しやすい開かれた庁舎をつくります。
- **休日等の利用**：グラウンドレベルに市民が閉庁時でも利用できる機能を多く配置し、市民利用を促し賑わいを創出します。
- **アクセス性の向上**：分散した庁舎の各エリアに自動車、バスのアクセスを確保することで市民の利便性を高めます。
- **滞在型施設**：居心地のよい滞在型の施設づくりにより、にぎわいを創出します。
- **こみせの継承**：積雪時のアクセス、周辺建物との連携のための通路として新たに「回廊こみせ」を計画し、まちの文化を継承します。

方針② かぐじを活用したまちなかコアによる市街地活性化

- **新しいコアの創出**：市民サービス施設を含む街区の「かぐじ」にあたる場所を、子ども・子育てを支援し、市民が交流できる新しいコア「あずまし広場」「かぐじスクエア」として再生し、横町や前町、上町などの周辺へのアクティビティを生み出します。

方針③ 多世代のライフスタイルを支えるまちなか再生へ

- **周辺エリア再生へ波及**：庁舎と広場の計画を起点として、松の湯交流館・市民サービス施設・黒石市立図書館の周辺における遊休地などの既存ストック活用へ波及効果を狙います。特に、子どもや子育て世代のニーズに応える場をつくり、市民の豊かなライフスタイルを支えるまちなか再生を目指します。

図2：エリアリノベーションの全体イメージ

【業務実施上の配慮事項】

方針④ 過去の実績と豊富な経験をもとに、各社の強みや専門性を活かしたチーム編成

- 黒石市における業務実績や庁舎設計の豊富な経験等、各社の強みを生かしたチーム編成により、コロナ禍においても迅速かつ着実に業務を遂行します。
- **全体監修**：横町十文字まちそだて会など、各世代のステークホルダー等との連携実績を持つ設計事務所が全体監修
- **組織設計事務所**：庁舎実績を多数有する組織設計事務所が、基本設計・実施設計を担当。新庁舎建設の多様な方向性を見据え、意匠、構造、設備を含め総合的に検討
- **都市計画コンサルタント**：黒石市の都市計画、景観・歴史業務、空き家の利活用社会実験等の実績を生かし、主に計画策定や市民参加、まち育て支援を担当
- **津軽地域設計事務所**：地元を良く知る津軽地域設計事務所が総合主任としてスピーディーに対応
- **専門家の参画**：ランドスケープや絵師（ファシリテーショングラフィクス）、子ども・教育に関する専門家の参画により、計画・設計の魅力アップを支援

方針⑤ コストと工程を徹底的に管理し、BIMの活用により設計品質を確保

- **確実な工程管理**：設計期間を通じた段階的な協議・決定事項（ホールドポイント）と時期を明確化した設計工程を共有し、後戻りなく確実に業務を遂行します。
- **コスト管理**：初期段階のコスト縮減効果は大きいことから、３段階のコスト検証を実施し、コストを確実にコントロールします。
- **事業手法検討**：本庁舎整備にあたっては、市の財政負担軽減の観点から従来方式に加えPPP事業等も検討します。
- **設計の可視化により品質を確保**：模型やBIMモデルを活用しながら計画イメージを分かりやすく関係者と共有します。VRや動画も活用します。環境解析により、光環境や温熱環境、自然換気の効果などを視覚的に検証します。
- **コミュニケーションの促進**：計画・設計定例を定期的に開催、進捗や課題の情報を共有します。迅速な意思決定のため、Web会議を併用します。

※BIM（Building Information Modeling）：コンピュータ上で現実と同じ情報を持った3次元のモデルを構築すること

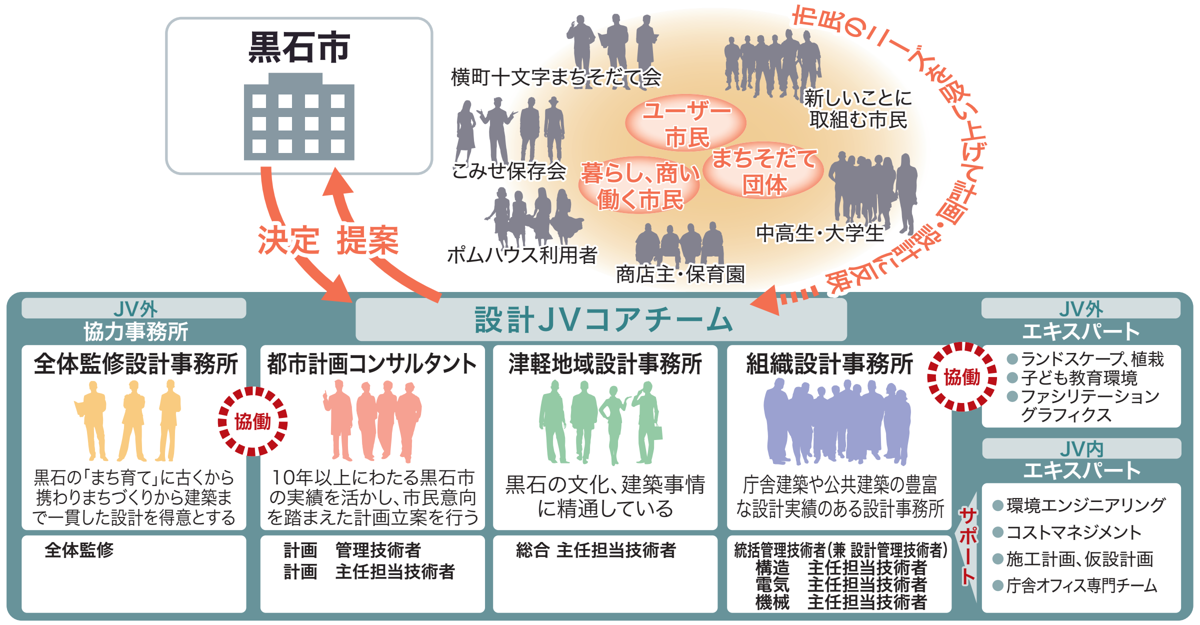


図3：業務実施体制

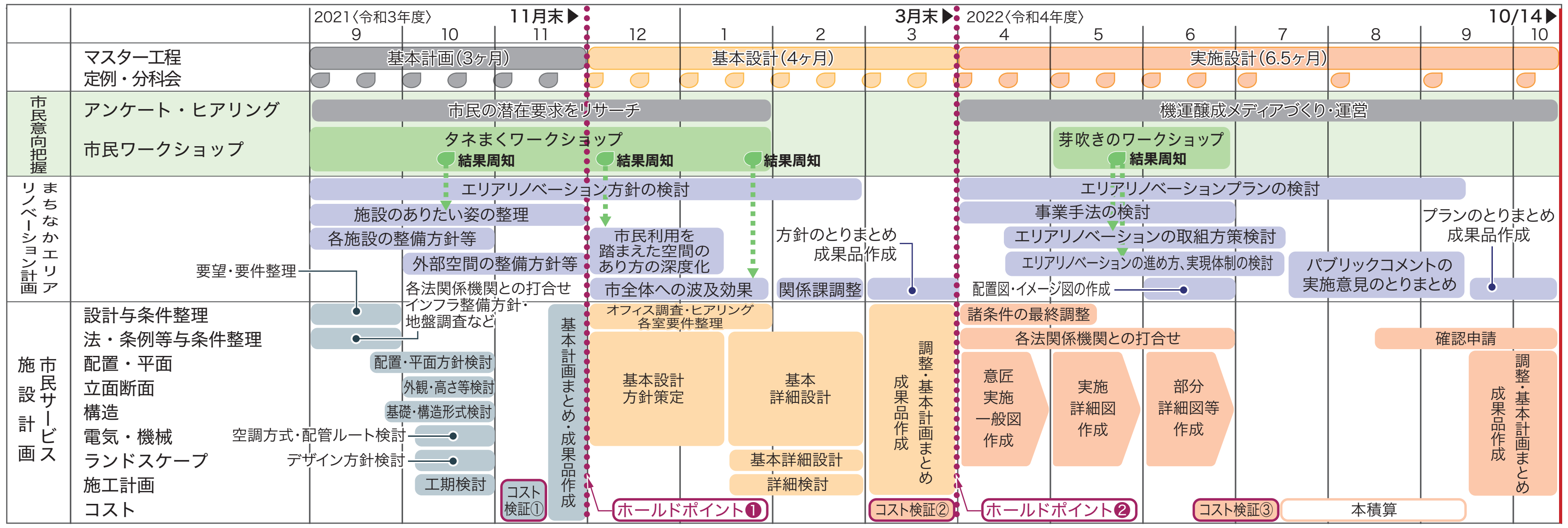


図4：工程表

市民の想いを紡ぎながら、みんなで育て、まちなか再生へと発展する場づくりを行います

【エリアリノベーションの進行計画等について】

① 将来像を見据えたエリアリノベーションプランの策定

- **進行段階に応じた目標設定**：新庁舎整備後のエリア街区周辺のこみせ再生や回遊性向上など、目指すべき将来像を描き、各段階での目標を設定した進行計画を検討します。

② 分散配置の利点を効果的に生かした複合機能の整備

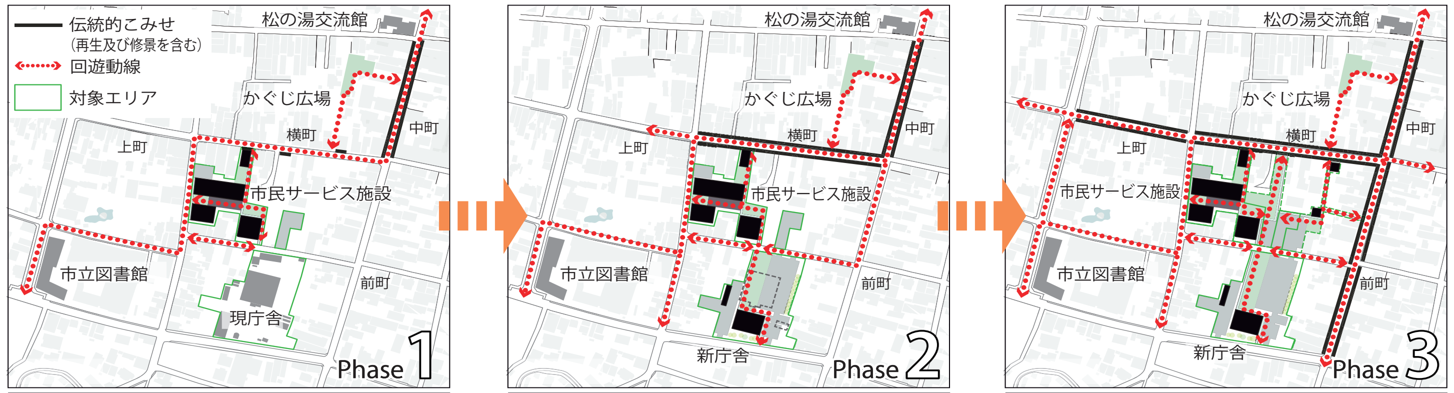
- **多様な交流の場づくり**：庁舎の分散配置により、市民、市職員、来街者の交流の機会が屋内外で増える利点を生かし、多様な交流の場所をエリア全体で計画します。

③ エリア全体の工程、安全性、コストを考慮したプラン

- **安心の先行検討**：新庁舎の建替と周辺整備完了までの間も、市民が安心して集えるように安全性を確保し、コスト削減を考慮した工程をエリア全体で先行検討します。

④ 周辺敷地の活用検討を整備の各段階で行う

- **公的場所がつながる整備**：周辺敷地との連携や借地を含む活用を積極的かつ慎重に検討し、業務区域の整備をきっかけとする発展的展開を市民と共に目指します。



● 市民サービス施設及びその周辺整備
本業務区域内の北側ゾーンにおいて、市民サービス施設の必要機能を成立させながら、広場空間や回遊性の繋がりなど、次の段階へのきっかけとなる整備を行います。

● 現庁舎を使用したまま新庁舎を整備
南側ゾーンの新庁舎整備では、エリア全体の繋がりを確保しながら、現庁舎を使用したままの進行計画とし、仮設庁舎を不要とするなど、整備全体でのコスト削減を検討します。

● 現庁舎解体と広場・駐車場などの整備
現庁舎の解体とその跡地活用を行いながら、本業務区域全体の繋がりと、周辺敷地や通りとの連携を行うことで、整備の効果を最大限に引き出すことを目指します。

Phase 1　周辺敷地の活用の検討 → Phase 2　整備の各段階で連携や活用 → Phase 3　エリアの発展的展開

図１：エリアリノベーションの進行計画

【計画分野と設計分野の連携体制と業務の進め方について】

⑤ 計画と設計が連携して市民の想いを実現

- **計画と設計の一体的な連携**：計画分野と設計分野の各担当のワークショップ参加、シームレスな検討等により、市民の想いを実現する施設設計と計画づくりを目指します。黒石のまちづくりに携わってきた設計事務所の全体監修によって活動と空間をつなげ、「まち育て」を促します。
- **市との綿密な情報共有**：黒石市や協力事務所を交えた定例会の開催などにより相互の情報を共有します。
- **計画へのリアルタイムな反映**：市民サービス施設の基本設計・運営方針・産業会館改修方針をエリアリノベーションプランに反映させ、常に双方が並走した検討を行います。

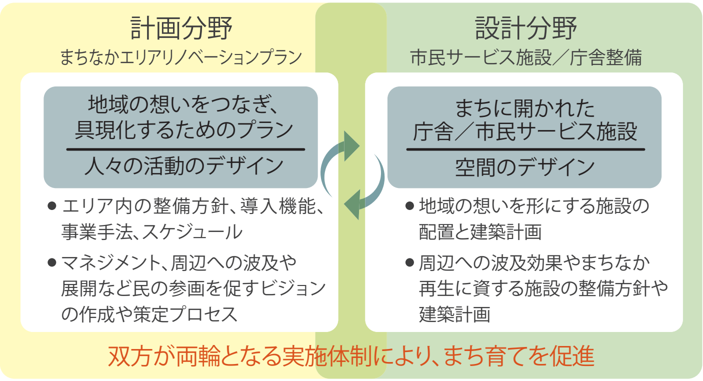


図2：計画分野と設計分野の連携イメージ

⑥ 建築計画とまちなか再生を高度に関係づける

- **周囲の施設と作用しあう建築計画**：松の湯交流館や黒石市立図書館を含めた周囲の賑わいや回遊、交通・アクセス、景観や歴史的資源等と結び付きを持った市民サービス施設のありたい姿・導入機能・施設方針を検討します。
- **まちなか再生への波及**：エリアリノベーションプランの取組は、周辺への波及効果を期待し、人の活動の活性化を促し、まちなか再生に資するものを目指します。

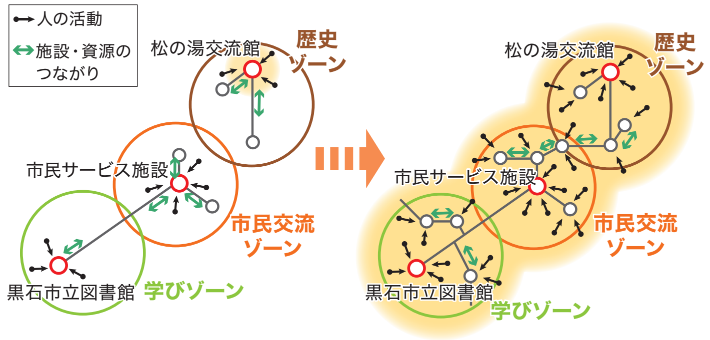


図3：周辺への波及イメージ

【市民や関係団体の意見の聴取・反映の手法について】

⑦ 地域の想いをつなぎ、形（ハード・ソフト）にする

- **総合的な市民ニーズの把握と反映**：WEBアンケート、関係団体へのヒアリング、ワークショップ等を組み合わせ、参加型での策定を段階的に進め、施設の計画・設計、エリア内の機能配置、整備後のマネジメント（ソフト）の検討を行います。
- **主体性と参加意欲の醸成**：「コト」（まちなかやエリアで起こるシーンや出会い、ストーリー）をつくるため、主体性と参画意欲の醸成を行うことができるプログラムとします。
- **社会情勢への臨機応変な対応**：新型コロナウイルス感染症等を踏まえ、実施方法（対面／オンライン）を検討します。

⑧ 空間を「場」としてみんなで育てていくためのワークショップ

- **タネを芽吹かせみんなで育てる**：市民等に親しまれる場とするため、段階的に参画を促す検討を行います。
- **タネまくワークショップ**：整備後のアクションやマネジメントの実現のタネとなるよう、公民の参画を促すビジョンの作成、人材ネットワークの構築などを行うプログラムを検討します。そのため、今現在まち育てに取組む人と本業務を通じて関わりを生み出したい人材を想定し、参加者を集めます。
- **芽吹きのワークショップ**：本業務の終了後に皆で「コト」をつくり、場として育てていくプログラム（**“そだてるワークショップ”**）へ展開するため、その練習となる“芽吹きのワークショップ”を実施し、整備後の公民が連携したマネジメントやソフトの仕組み、参画を促す視点をプランへも位置づけます。

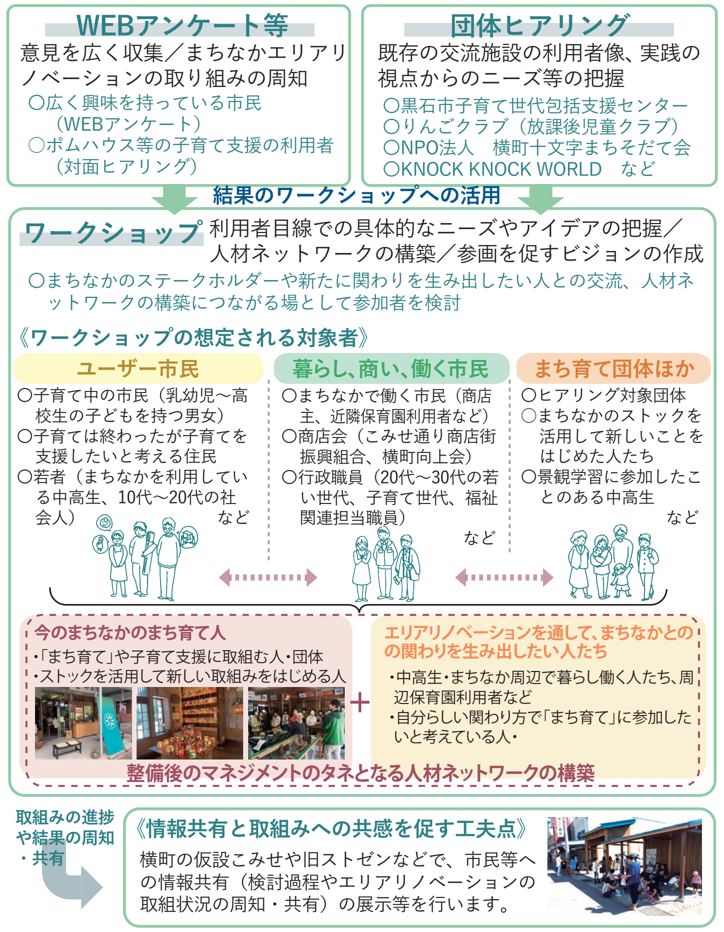
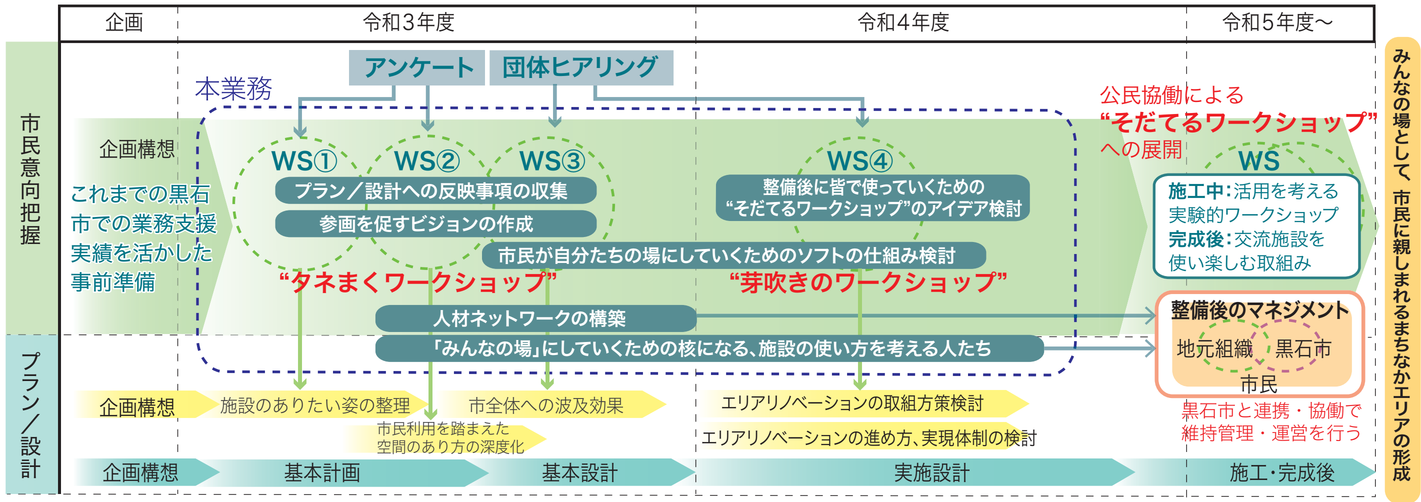


図4：市民や関係団体の意見聴取の方法



《ワークショップの検討テーマの例》

WS①まちと建物について考えるWS：大黒デパート跡地、リノベーションエリア、まちなかに対する想い、かつて・今・これからの物語の掘り起こし。

WS②建物の使い方を考えるWS：オープンスペースの使い方、エリア内ではどんな機能・場づくりが必要か。

WS③理想の過ごし方を考えるWS：エリア内やまちなかでどんな過ごし方をしたいか。まちなかへの波及、遊休不動産活用促進として必要な取組みは何か。

WS④活動・運営について考えるWS：エリアをみんなの場として育てていくために必要な体制や仕組み。誰に関わってほしいか、どうしたら自分も参加したいと思うか。

《市民の参画を促すための工夫点》

市民意向を踏まえ、対象エリアやまちなかで起こってほしい“コト”を専門家の協力を得ながら見える化し、「公民の参画を促すビジョン」としてまとめます。

専門家によるライブドローイング・対面とオンラインの併用により実施／
参加者の想いを有機的に結び、１枚の絵姿としたビジョンの一部（JV構成員実績）

図5：ワークショップの進め方

行政・交流機能を広場とともにまちなかにつなぎ、創出された人の流れがエリア全体のポテンシャルを高めます

【エリアリノベーションのエリア内における行政機能（新庁舎及び産業会館を含む）、子育て支援機能及び市民交流機能の関連性について】

①「回廊こみせ」で有機的につながる施設配置

- **機能別の分棟構成**：エリア内の施設は3棟の庁舎（市民サービス施設、本庁舎、産業会館）による分棟構成とし、各々に適切な機能を配置します。
- **目的に応じた多様な広場空間**：施設間のスペースには、「かぐじ」の考え方に倣った広場を設け、市民活動に応じた多様な外部空間を創出します。
- **回廊こみせで施設をつなぐ**：エリア内は、伝統的「こみせ」の思想を受け継ぐ屋根付きの「回廊こみせ」を設置することによって、分散した各施設や広場、駐車場との連携を高めます。

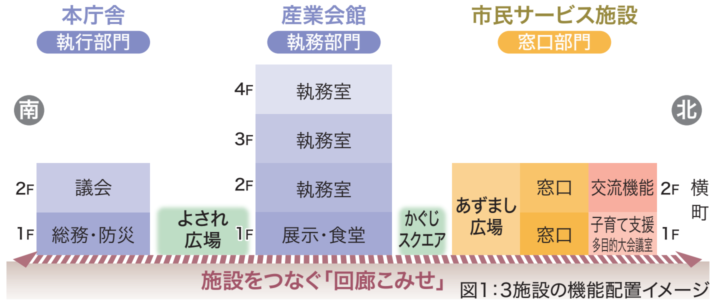


図1：3施設の機能配置イメージ

②グランドレベルをまちに開き、出会い、交流を促す

- **まちに開かれた施設構成**：市民サービス施設は横町、西側県道、東側「かぐじスクエア」の3方向からアクセス可能とし、休日も通り抜けが可能な動線を確保します。
- **交流の核となる「あずまし広場」**：市民サービス施設1階の「あずまし広場」を中心に、子育て支援機能や交流機能を配置することで、多世代交流の核となる空間とします。
- **横町に賑わい創出**：市民サービス施設の横町商店街に面して、起業を考える人等が利用できる「ポップアップショップ」を設置することで、まちに賑わいを創出します。
- **産業会館1階は市民に開放**：産業会館の1階は職員も市民も利用できる食堂「あずましラウンジ」の設置を提案します。

③利便性に配慮した外部動線

- **機能的な駐車場配置**：本庁舎周辺には、来庁者・公用車・観光用駐車場を整備し、その他の施設にも来庁者駐車場を確保します。
- **バス利用者の利便性向上**：バス停は各施設に隣接した位置に再配置し、ぷらっと号のルート変更等も提案します。

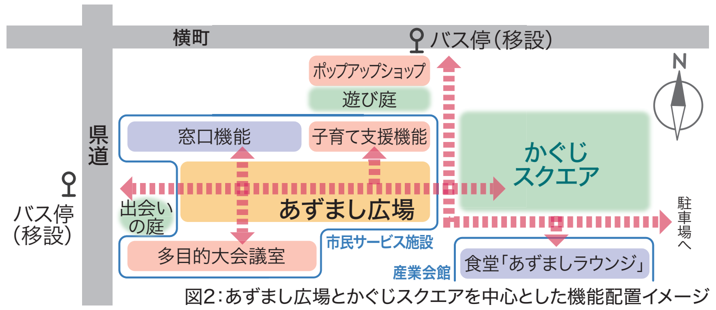


図2：あずまし広場とかぐじスクエアを中心とした機能配置イメージ

図3：施設と一体となる「かぐじスクエア」イメージ

図4：エリアリノベーションの将来イメージ

【エリアリノベーションのエリア内の建物や広場等の配置計画について（エリアの将来的な本庁舎建て替え後のイメージを含む）】

④新たな「コト」を生み出す「かぐじスクエア」

- **多様なイベントに応える「かぐじスクエア」**：市民サービス施設と産業会館双方に面する「かぐじスクエア」は、マッコ市やクラシックカーミーティングなど既存のイベントを継承するとともに、定期マーケット等の新たな市民活動の受け皿となります。
- **施設内外を一体的に利用**：「かぐじスクエア」に面する市民サービス施設及び産業会館は、全開放可能な建具として、一体的な利用ができる計画とします。また双方の施設に設けたバルコニーを観覧席として利用するなど、人が集まる仕掛けをつくります。

⑤市民のアクティビティを支える多様な広場

- **屋外イベント会場となる「よされ広場」**：南側敷地の「よされ広場」は、現状行われている黒石よされなど市の大規模なイベントの会場として活用します。
- **子どもや地域住民の居場所を創出**：子育て支援機能に面して子どもが自由に遊べる「遊び庭」や、地域住民や来街者が散策途中に休憩できる四阿を備えた「憩いの庭」など、市民の居場所となる様々な外部空間を創出します。

⑥災害時は活動拠点として円滑に機能

- **災害対策本部となる南側エリア**：本庁舎は災害対策活動拠点となることから、駐車場や「よされ広場」は自衛隊や赤十字の待機スペースとして活用します。
- **市民やボランティアの活動拠点となる北側エリア**：市民サービス施設は一時避難場所、罹災証明窓口として機能します。多目的大会議室は救援物資の集積場、小会議室はボランティアや応援自治体職員の控室となります。
- **炊き出しスペースとなる「かぐじスクエア」**：「かぐじスクエア」は産業会館1階の厨房機能を活かして炊き出しスペースとして活用します。
- **豊富な地下水の利用**：融雪用の井水を防災用井戸として活用します。

⑦多目的な利用に応える「回廊こみせ」

- **多機能な「回廊こみせ」**：日常的な連絡通路として使用するだけでなく、イベント時は屋台や展示スペースに転用でき、災害時には炊き出し等の災害活動時の仮設テントとしても利用可能な設えとします。

図5：回廊こみせの活用イメージ

黒石の歴史と文化を形成してきた伝統的作法を現代へ生かし、未来につなぎます

【こみせやかぐじなどの歴史的・文化的資源との調和と復元促進について】

① 黒石の歴史・文化の継承とまち並みの育成

- **こみせの再生と創造**：黒石のまち並みを特徴づける「こみせ」は中町の伝統的形態のみではなく、前町や横町など通りごとにスタイルが異なります。街なみ環境整備の修景事業と連携し、通りごとの景観に適したデザインの「こみせ再生」を促します。西側県道に面して新たに「こみせ」を創造し、歴史的まち並みと調和した回遊空間をつくります。
- **かぐじの活用**：かつてのかぐじであったスペースを、祭礼や旧正マッコ市などのイベント、まち歩きの休憩スペースとして活用可能な公共広場として再生し、黒石の歴史・文化を継承・発展させた新たな賑わいづくりを行います。
- **こみせとかぐじをつなぐ回遊路**：エリア内の「回廊こみせ」と「こみせ」を連続させ、中町伝建地区や金平成園等の歴史的資源や、図書館やスポーツ交流センター等を利用する人の流れをつなぎ、回遊性を高め、賑わいを広げます。

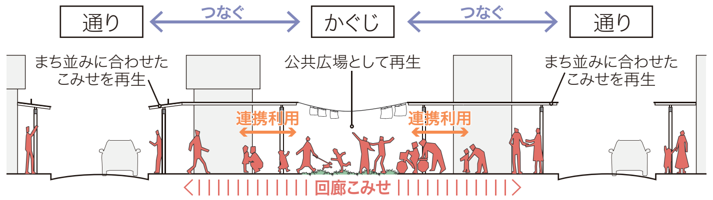


図1：歴史的・文化的資源の活用イメージ

② 横町のこみせ再生

- **横町のこみせ再生モデル**：まち並み再生の機運が高まりつつある横町に面した市民サービス施設のファサードは、隣接する伝統的な「こみせ」を有する町家と連続性のあるデザインとし、魅力ある横町のまち並みをつくります。
- **こみせ再生のデザイン**：「こみせ再生」とまち並みづくりを促進するため、自動車利用への配慮や防耐火性能など、現代のスタイルを考慮したデザインを検討します。
- **人の流れの創出**：横町に面して市民サービス施設の入口を設け、商店街に人の流れを呼び込みます。
- **こみせ再生・賑わいの誘引**：修景事業と連携しながら横町の「こみせ再生」を促し、中町とつなぎ、観光客の回遊性を高め、交流による賑わいの広がりを目指します。

図2：横町側市民サービス施設入口イメージ

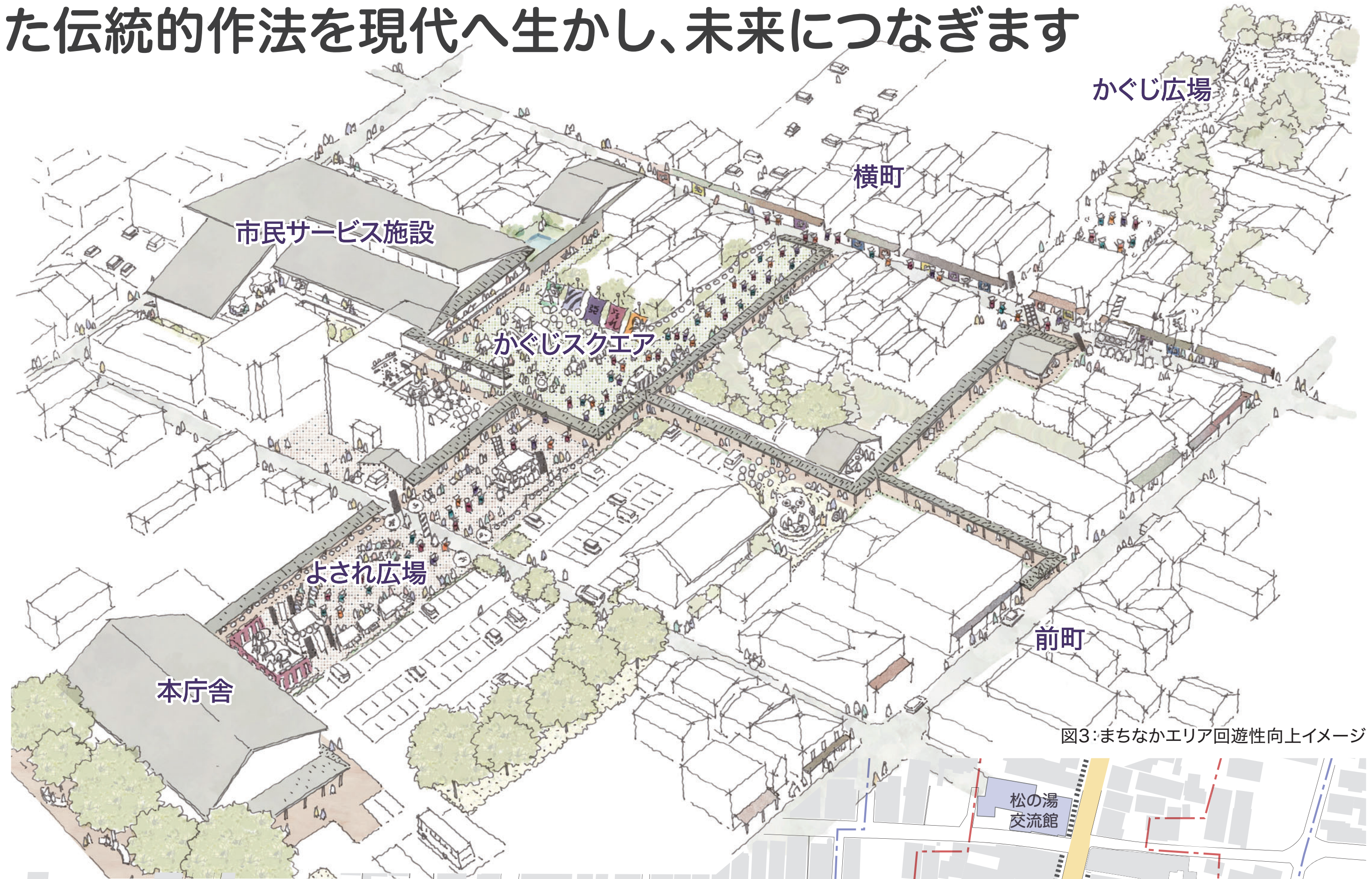


図3：まちなかエリア回遊性向上イメージ

図4：こみせ再生・かぐじ活用による回遊性の向上イメージ

【降雪時も回遊できるエリアの形成について】

③ 積雪時の施設アクセス動線に配慮

- **降雪・積雪時も安心な屋根付き動線**：各駐車場やバス停から施設入口までを、「こみせ」や「回廊こみせ」による歩行空間でつなぎ、降雪・積雪時においても、安全で快適な動線を確保します。
- **堆雪スペースとして利用可能な広場**：来庁者駐車場に沿って広場スペースを設け、冬季の堆雪スペースとして活用することで、駐車場を維持管理しやすい計画とします。
- **駐車台数の確保**：施設近隣の民間施設駐車場やコインパーキングの借用も視野にいれ、アクセスしやすいエリア形成を目指します。
- **バス停の移設**：公共施設入口付近にバス停を移設し、こみせを併設することで、四季を通じて歩行しやすい施設を整備します。

④ 安全で快適な回遊空間の形成

- **バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮**：子育て世代や中高生、高齢者など多世代が安全に歩けるよう、バリアフリー化やユニバーサルデザインに配慮した動線を確保します。
- **楽しく歩ける環境整備**：「回廊こみせ」に沿った広場には、様々な植栽帯の設置や、地域とともに活用を考えるプログラムを検討するなどし、地域に親しまれ楽しく歩ける環境を整えます。
- **安全安心な無落雪屋根**：新たに設ける「こみせ」や「回廊こみせ」の屋根は耐雪型の無落雪屋根とし、維持管理がしやすい安全な回遊空間を形成します。

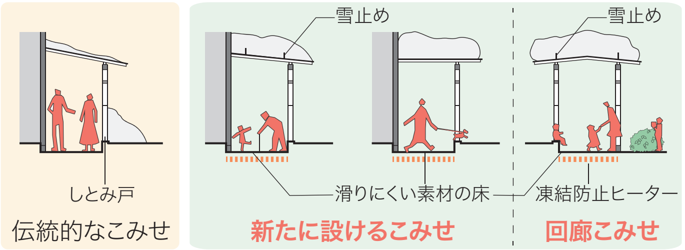


図5：安全安心な回遊空間のイメージ

⑤ 歩きやすいまちづくり

- **回遊・滞留しやすい場づくり**：市民サービス施設内の通路や広場、「回廊こみせ」等をつなぐことで、居心地よく多彩な活動ができる歩きやすいまちづくりを目指します。
- **必要な案内サインの新設**：まちなかの歴史的資源を巡りやすく、まちの魅力を知り、まち歩きを楽しめるよう、必要な案内サインを設けます。
- **エリア内外の回遊性の向上**：旧ストゼンなど、エリア内外に点在する空き家・空地の利活用を促進し、回遊性を高めます。

市民が集い、憩い、語らう“あずまし”の交流拠点を創出し、まちなかに賑わいをもたらします

【(仮称) 市民サービス施設の設計及び整備方針について】

① まちとつながり、新たな人の流れをつくる

- **あらゆる方向からアクセス**：横町や西側、「かぐじスクエア」や産業会館等、多方向からのアクセスに配慮します。
- **冬季も集える居場所**：積雪時も市民が集える屋内空間「あずまし広場」を施設中央に設けます。
- **「回廊こみせ」による連携**：横町にはポップアップショップを設け、賑わいの顔づくりを行うとともに、「回廊こみせ」によって各施設を有機的につなぎます。

② 世代間交流や官民連携を誘発する施設構成

- **利用者間の交流を誘発**：「あずまし広場」を囲むように、庁舎窓口や「こどもあそび広場」等の諸機能を配置することで、利用者間の自然な交流が誘発されるゾーニングとします。
- **官民連携に配慮**：窓口部門と交流センター機能は、各々を隣接させ、官民連携のしやすさに配慮した計画とします。
- **産業会館との連携**：1階、2階の北側に出入口を新設し、2階の「回廊こみせ」でつなぐことで、施設間連携に配慮します。

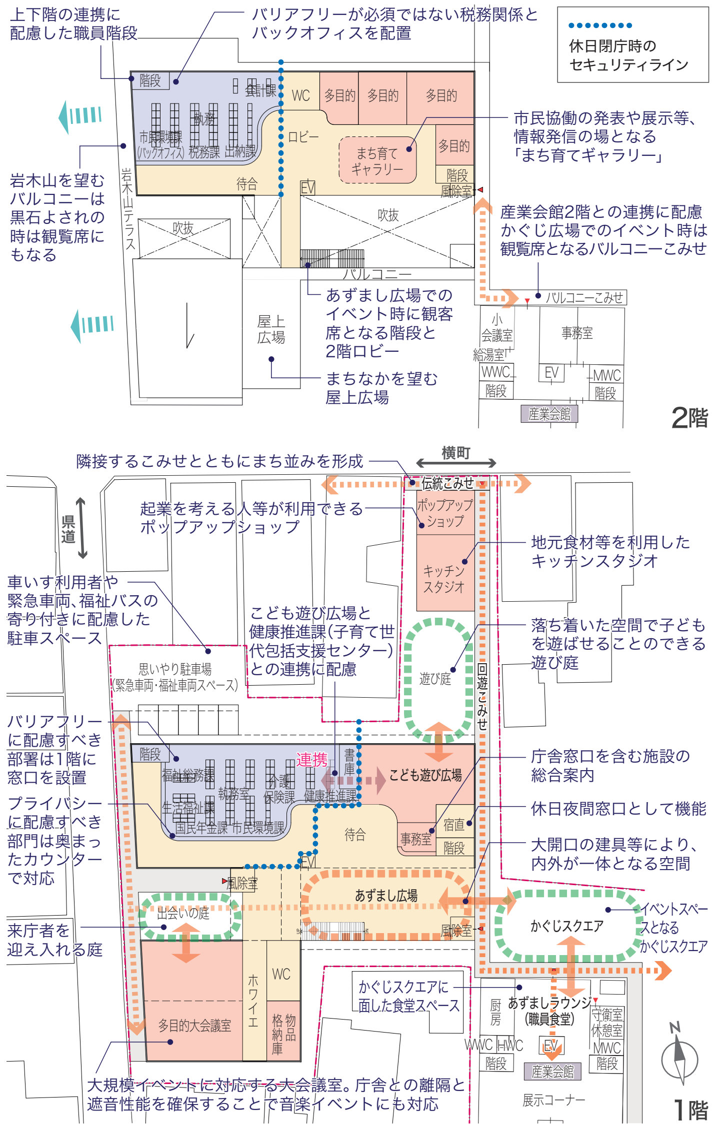


図1：平面図イメージ

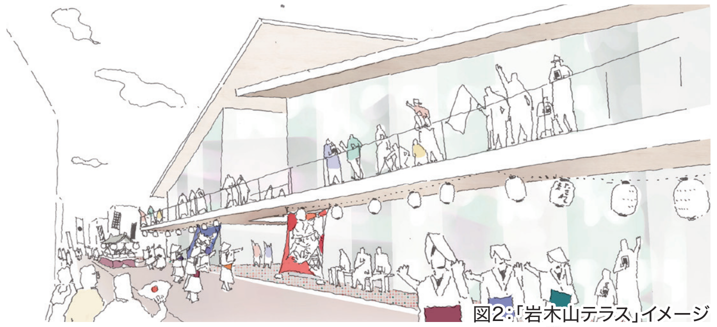


図2：「岩木山テラス」イメージ

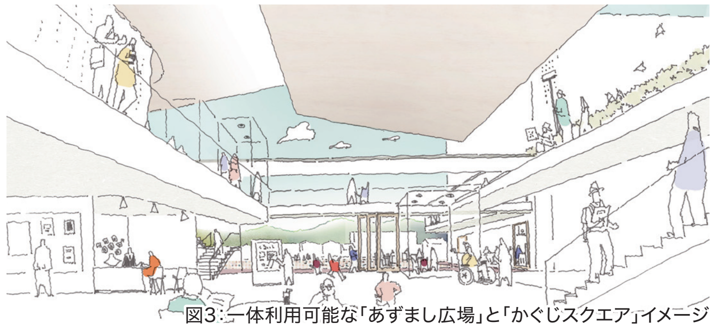


図3：一体利用可能な「あずまし広場」と「かぐじスクエア」イメージ

図4：様々なアクティビティを生む施設の活用イメージ

【ユニバーサルデザインやバリアフリーについて】

③ だれもが使いやすく“あずましい”交流拠点

- **分かりやすい施設構成**：2層吹抜けの「あずまし広場」は、一目で施設全体を見渡せる開放的な空間構成とします。
- **利用者のバリアフリーに配慮**：子育て支援センターや介護などの福祉に関する窓口は1階に集約配置することで、高齢者や子ども連れの来庁者も利用しやすい計画とします。
- **建物に近接した車両スペース**：車いす利用者や福祉バスなどの利用に配慮して、西側県道に面して屋根付きの乗降スペースと駐車場を設置します。

図5：2層吹抜けの「あずまし広場」イメージ

【景観への配慮について】

④ 黒石の都市景観に調和するデザイン

- **低層分棟型の庁舎配置**：低層を基調とした都市景観との調和を図ります。
- **勾配屋根**：黒石の伝統的建築や岩木山のシルエットをモチーフとした屋根デザインとし、風景との調和を図ります。
- **岩木山の眺望**：西側に岩木山を眺めるテラスを設けます。
- **黒石の伝統的な暮らしの様式や生業**：縦格子や通り土間などの建築的要素をルーバーや半屋外空間のデザインに取り込みます。津軽の伝統工芸をインテリアや家具のデザインモチーフに採用します。

図6：黒石の伝統イメージ

【環境への配慮について】

⑤ 木質化による温かみのあるインテリア計画

- **県産材を積極的に活用**：「あずまし広場」の内装や、市民が日常的に使う受付カウンター、待合ソファー、「こども遊び広場」の家具等に県産木材を採用します。

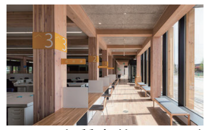


図7：木質内装イメージ

【維持管理費の抑制や本市の積雪、凍結にも耐久性を発揮する設計の考え方について】

⑥ 維持管理費の抑制

- **ロングスパン構造の採用**：鉄骨造を採用することで、将来の組織改編や模様替えなどに伴うプラン変更にもフレキシブルに対応可能な平面計画とします。
- **効率的な設備システム**：庁舎機能と交流機能の利用時間の違いに配慮したシステムとします。
- **改修や更新に配慮**：汎用品の採用や、省エネ技術の段階的な導入など、改修や更新時のコストに配慮した計画とします。
- **外周部バルコニー**：窓面のメンテナンス性に配慮します。
- **除雪、堆雪スペースの確保**：駐車場には車止めを設けないなど除雪作業に配慮した外構計画とします。

⑦ 寒冷地における耐久性向上

- **耐雪型の屋根**：雪止めを適切に設置します。
- **雪庇・落雪の防止**：雪庇や落雪を防止し、すが漏れのリスクを未然に防ぐため、効果的な位置に融雪ヒーターを設置します。
- **凍結深度**：建物基礎や舗装に凍上抑制層を設け、設備配管の凍結防止に配慮します。
- **防汚性能、凍害**：十分に配慮した外装材を採用します。

「ひと・もの・空間・情報」を活かし、次世代につなぐ故郷（ふるさと）くろいしを目指します

【テーマ④、⑤：本市の自然条件を考慮した、環境への配慮について】

① 黒石の自然環境と共生する環境調和型建築

- **黒石の気候風土に根ざした環境手法**：自然換気や地下水の利用等、黒石の気候条件に適した省エネルギー手法を活用した、環境調和型の建築計画とします。
- **LCCO2を約30%削減**：市民サービス施設については、様々な省エネ手法により、ライフサイクルCO2を約30%削減を目指します。
- **ZEBの導入**：設計の初期段階から、試算検討を行います。

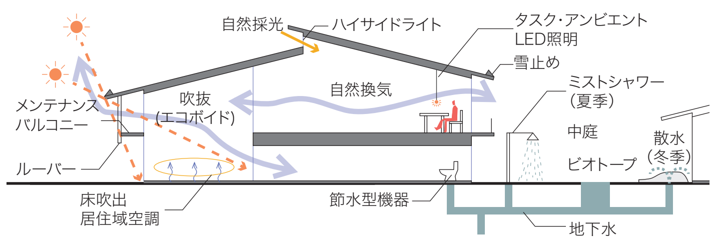
② 持続可能な都市の実現に向けて

- **レジリエントな都市の実現**：市民サービス施設、本庁舎においては、災害時でも事業継続できる安全性の確保を図り、都市機能のレジリエンス性を高めます。
- **カーボンニュートラルに向けて**：長寿命化、フレキシビリティ、快適性、信頼性を確保することで、国が掲げた2050年カーボンニュートラルに向けた取り組みを提案します。

日射抑制・自然採光
・庇（こみせ）、ルーバーにより夏の日射を防ぎ、冬の日射を取り込みます。
・ハイサイドライトにより、室内に自然光を取り入れます。

自然換気システム
・夏の北北東の風、春秋の南南東の風を、南北の開口より効率よく取り込みます。
・吹抜け（エコボイド）によって通風を促します。

高気密・高断熱
・Low-e複層ガラスおよび外断熱工法によって、快適な温熱環境を作り、空調負荷を軽減します。



高効率空調・照明
・空調：空冷ヒートポンプ空調、全熱交換器、居住域空調（床吹出）を採用します。
・照明：人感センサー制御、高効率LED照明、タスクアンビエント照明を採用します。

個別分散・個別制御
・必要な領域のみ個別管理が可能な空調計画とします。
・利用に応じて制御域を自由に変更することができるハイブリット照明システムを採用します。

地下水利用
・便器洗浄水、中庭植物への散水、ビオトープ流水の水源として利用します。冬は散水融雪として雪対策に、夏はミストシャワーとして熱対策に活用します。

図1：環境に配慮した市民サービス施設のイメージ

【市民をはじめ来街者も利用しやすく、親しまれるエリアの利用や形成について】

③ 持続的なまち育てのプログラム

- **出会いと交流の拠点**：「あずまし広場」や「まち育てギャラリー」など、子育て支援やまち育ての拠点となる場を核として、若い世代、子育て世代を中心に"子どもとともに"まちを面白くする機能を配置し、出会いや交流を促します。
- **新しいコンテンツを生み出す拠点**：まちなかの魅力を高めるタネとなる資源をつなぎ、まじりあう場を創造し、まちなかや暮らしを楽しむ新しいコンテンツをつくり、エリアリノベーションの動きとともにひろげます。
- **親しまれるまちなかの形成**：整備後のマネジメントの仕組み、施設の愛称を公募するなど、市民の参画機会をより多く生み出し、親しまれるまちなかの実現を目指します。

つなぎ　まじり　つくり　ひろげる
まちなかの魅力を高めるタネとなる資源（空間・人・もの・情報）を**つなぎ**、**まじり**あう場を創出し、まちなかや暮らしを楽しむ新たなコンテンツをみんなで**つくり**、まち育ての輪を**ひろげる**

"子どもとともに"で、まちをもっと面白く
小学生〜中高生までの子どもたちの居場所、子育て支援の場をまちに開き、地域のつながりを生み出す交流の場を核として機能を配置

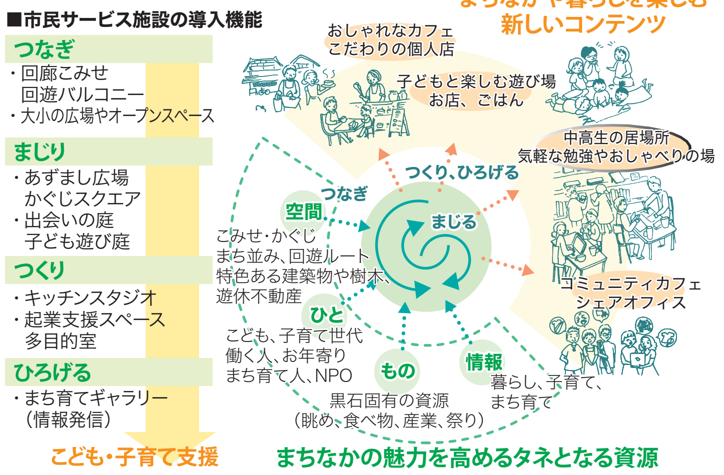


図2：新たな魅力創出の市民交流施設の導入機能

④ 民間と連携したCO交通の再編

- **コミュニティバス再編**：積雪期は徒歩移動が適さないため、市が行うコミュニティバス再編と連動し、まちなかへのアクセスと利便性向上を目指したプランとします。
- **ゾーンごとの駐車場確保**：多様な回遊性を考慮して、3つのゾーンごとに駐車場の確保を想定し、本プランの駐車場はそのコアとして整備します。また、コインパーク事業者と連携したカーシェアの設置により、来訪者の広域的な移動支援のあり方にも配慮します。
- **多様な移動手段の検討**：今後、移動手段へのニーズが向上する可能性があり、中間支援組織や民間事業者と連携したレンタサイクルや新たなモビリティ導入の可能性をプランにおいても検討します。

※CO交通：様々な主体の協働により地域モビリティを支える仕組み

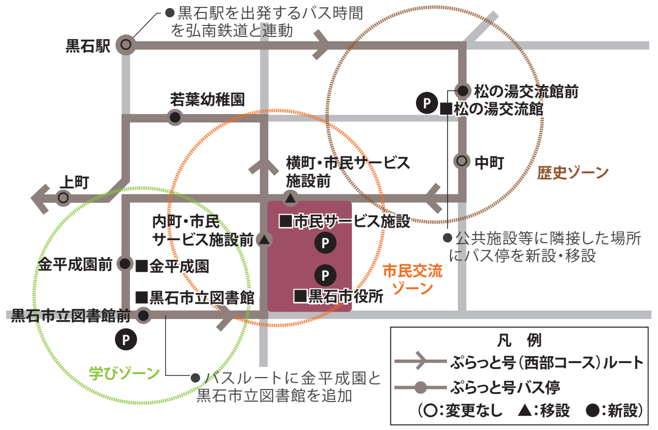


図3：コミュニティバス再編等のイメージ

【中心市街地の都市機能を維持するための取組や考え方について】

⑤ 関連計画の連携と周辺への波及効果

- **関連計画が連携したまちなか再生**：黒石市まちなかエリアリノベーションプランは、①黒石市中心市街地活性化基本計画、②黒石市地域公共交通網形成計画、③黒石市立地適正化計画、④第2期黒石市子ども・子育て支援事業計画と連携を図ることで事業効果の最大化を目指します。また、これらグループを「まちなか再生プラン」とし、黒石市を先導するSDGsとして位置づけた取り組みを行います。
- **横断的組織による計画の進行管理**：本エリアリノベーションプランは長期に渡る事業であり、分野横断的な連携による進行管理が必要になります。このワーキングチームが継続的に「まちなか再生プラン」のマネジメントを行うことが想定されます。
- **周辺への波及**：まちなかや暮らしを楽しむ新しいコンテンツの情報発信や「まちなか再生プラン」の期待される効果（アウトカム）の達成状況を発信し、市民や来訪者の共感をスパイラルアップさせることで周辺へ波及させ、持続あるまちなか再生を目指します。

⑥ 新しいコンテンツを広げ、「働く」、「住む」を促す

- **遊休地の情報**：弘前圏域空き家・空き地バンクと連携し、「まち育てギャラリー」でまちなかに特化した遊休地情報を取扱い、新規出店や場づくりを支援します。
- **遊休地の利活用**：横町入口のポップアップショップの持続的な運営や民泊との連通を通じ、「働く」と「住む」というまちなかの基本的な都市機能の充実を目指します。

⑦ 子ども・子育てや公民館活動との連携

- **子ども・子育て拠点**：市民サービス施設では、各地域の子ども・子育てに関する各種事業の後方支援機能を持たせ、りんごクラブの定期的な交流を行うなど、子ども・子育てに関するネットワーク拠点として育みます。
- **小さな市役所**：市役所と公民館を情報やCO交通でネットワークし、小さな市役所と各地区の活性化を目指します。

⑧ 食を通じたまちなかと田園地域のつながり

- **食の活用**：「あずましラウンジ」での食事提供や、「かぐじスクエア」の定期マーケットで、田園地域のコメ、りんご、野菜類の活用を促し、黒石市の持続性の向上を目指します。

⑨ 黒石温泉郷との連携による滞在・交流時間の拡大

- **郊外拠点とのネットワーク化**：まちなかと黒石温泉郷において、歴史・文化的資源の保全・活用や、相互の拠点を情報やCO交通で結ばれることを想定します。
- **滞在・交流時間の拡大**：まちそだて団体とインバウンド団体の連携を促すなどにより、全市的に滞在・交流時間の拡大を目指すことを想定したプランとします。

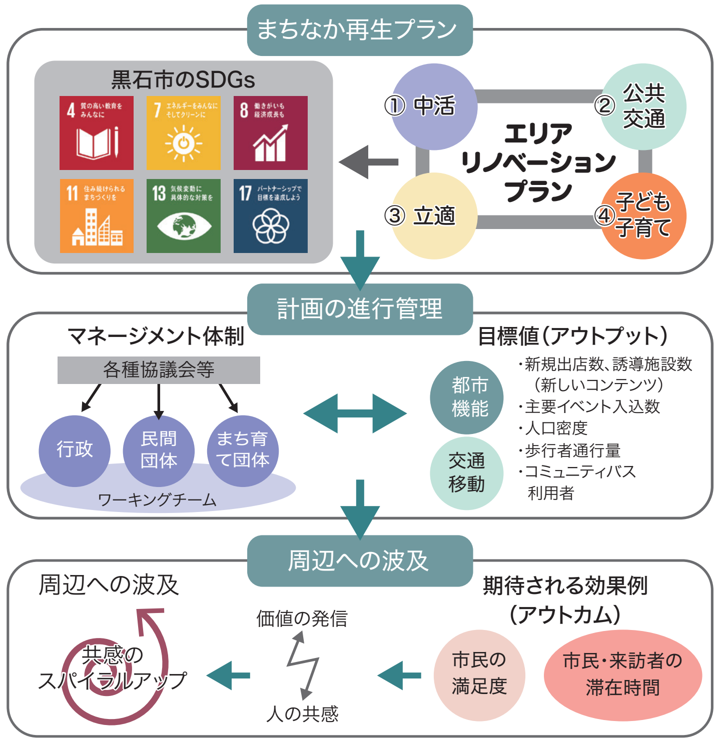


図4：計画のマネージメントと周辺への波及の流れ

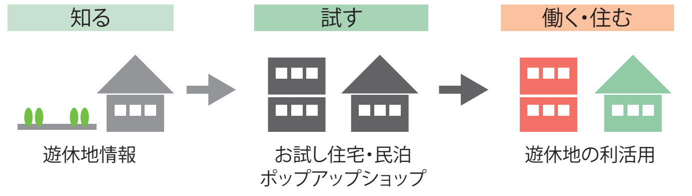


図5：遊休地情報とお試し住宅・ショップから定住等の関係図

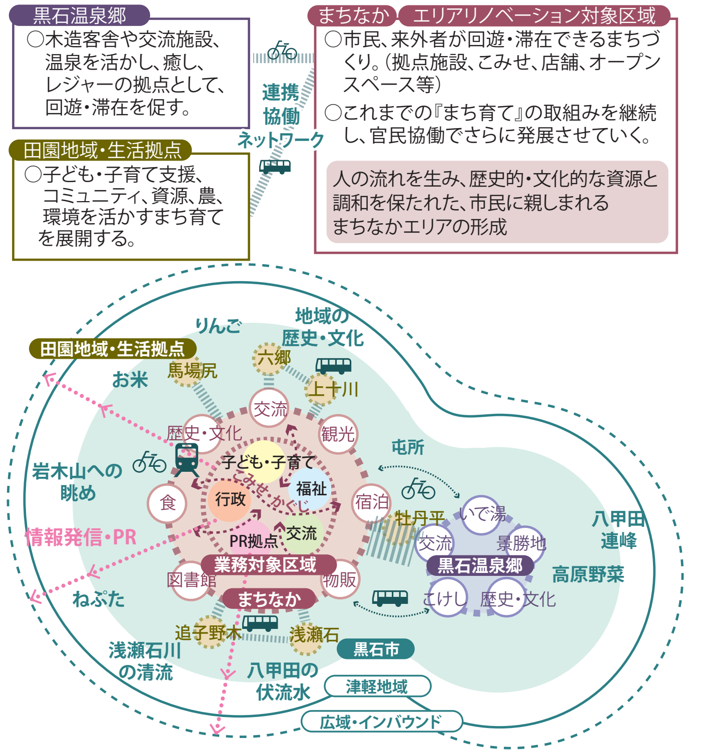


図6：まちなか・黒石温泉郷・地域生活拠点のネットワークイメージ